

試験場平成26年度病虫害発生予報第10号

平成26年12月3日
鳥取県病虫害防除所

予報の概要

区 分	農 作 物 名	病 害 虫 名	発 生 時 期	予 想 発 生 量
野 菜	ラッキョウ	白色疫病	やや早い	やや多い
	イチゴ	うどんこ病	平 年 並	やや多い
		灰色かび病	平 年 並	平 年 並

気象予報（抜粋）

1か月予報（11月29日～12月28日：11月27日、広島地方気象台発表）

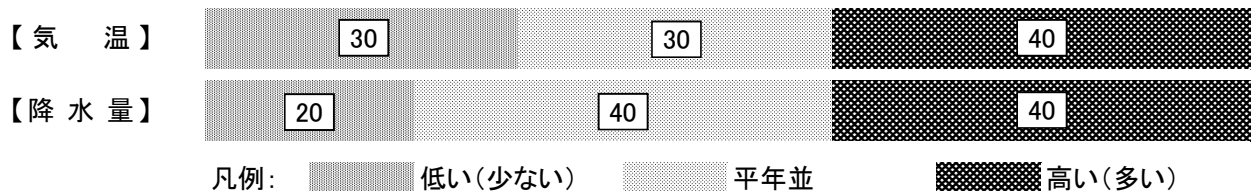
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

山陰では、平年に比べに曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

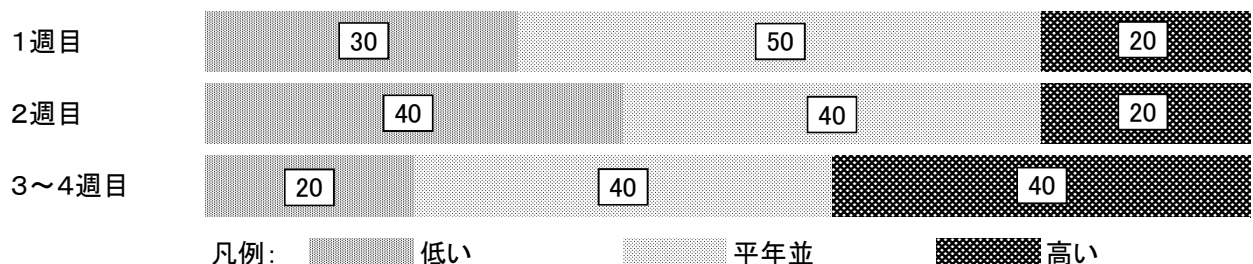
向こう1か月の降水量は、平年並または多い確率ともに40％です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40％です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50％です。2週目は、平年並または低い確率ともに40％です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40％です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率($\%$)>



<気温経過の各階級の確率($\%$)>



野菜

[ラッキョウ]

1 白色疫病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い
発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

- ア 平年は初発生が年明け以降であるが、11月下旬現在、県東部の現地調査ほ場で発生が見られている。
- イ 前年の発生量が多かったことから、土壌中の病原菌密度は高いと考えられる。
- ウ 本病は、晩秋から初春の連続降雨や積雪により発病が多くなる。
- エ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア ほ場の排水対策とともに、年内の防除を徹底する。
- イ 12月には、フォリオゴールド1,000倍液、ランマンフロアブル2,000倍液などを散布する。
- ウ 1～2月の連続降雨後及び雪解け時に、フォリオゴールド1,000倍液、ホライズンドライフロアブル1,000倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液などを追加散布する。
- エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一成分の薬剤の連用は避ける。

[イチゴ]

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

- ア 11月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや多い。
- イ 向こう1か月の気象予報から、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発後の防除は難しいため、予防防除に重点を置く。薬剤は、表1を参考に使用する。
- イ 既に本ほ場で発生している場合は、薬剤を3～5日間隔で輪番散布する。その後、病勢が抑制されれば、7～10日間隔の薬剤散布に戻す。
- ウ QoI剤（アミスター20フロアブル及びストロビーフロアブル）は、機能性展着剤と混用すると薬害が発生しやすいので、これらの展着剤は加用しない。
- エ DMI剤（ラリー水和剤など）を使用する際は、カリグリーンなどを混用すると防除効果が高まる。
- オ 硫黄粒剤のくん煙処理は、発病後の効果は低いため、発病前からの予防的な処理を行う。
- カ 薬剤散布は、薬液が葉裏や芽の間にもよくかかるように丁寧に行う。
- キ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表1 イチゴうどんこ病の本ぼにおける主な防除薬剤

農薬系統分類	薬 剤 名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前 日数
無機硫黄	硫黄粒剤	6～16 g /2000m ³	—	—
	イオウフロアブル	2,000倍	—	—
有機銅	サンヨール	500～1,000倍	6	前日
アニリン・リジン系	フルピカフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日
	フルピカくん煙剤	50g/500m ³		前日
グアニジン系	ベルコート水和剤	4,000倍	2	前日
	ベルコートフロアブル	2,000～4,000倍		前日
グアニジン系・ ヒドロキシニトリド系	ダイマジン	2,000倍	2	前日
S D H I 剤	アフェットフロアブル	2,000倍	3	前日
Q o I 剤	アミスター20フロアブル	1,500～2,000倍	3	前日
	ストロビーフロアブル	3,000～5,000倍	3	前日
D M I 剤	ラリー水和剤	4,000～8,000倍	3	前日
	ルビゲン水和剤	4,000倍	3	前日
	トリフミン水和剤	3,000～5,000倍	5	前日
	トリフミンシエット	50 g /400m ³		前日
	スコア顆粒水和剤	2,000倍	3	前日
	パンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	2	前日
	パンチョTFシエット	50g/400m ³		前日
キノキサリン系	モレスタン水和剤	3,000～4,000倍	2	前日
脂肪酸グリセリド	サンクリスタル乳剤	300～600倍	—	前日
無機化合物	ジーファイン水和剤	750～1,000倍	—	前日
	カリグリーン	800～1,000倍	—	前日
	ハーモイト水溶剤	800～1,000倍	—	前日

2 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、現地調査ほ場における発生は認められない。発生が多くなるのは平年並の3～4月頃と予想される。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枯れた下葉や病果は早めに除去する。

イ 하우스内が20℃前後で多湿になると多発しやすいので、随時、通風換気を行い、必要以上の灌水は避ける。

ウ 使用する薬剤は、表2を参考に7～10日間隔で輪番散布する。

エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表2 イチゴ灰色かび病の本ほにおける主な防除薬剤

農薬系統分類	薬 剤 名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前 日数
有機銅	サンヨール	500倍	6	前日
アニリノヒ°リミジン系	フルビ°カフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日
	フルビ°かくん煙剤	50g/500m ³		前日
ジカルボ°キシミト°系	ロブ°ラル水和剤	1,500倍	4	前日
	ロブ°ラル500アケア	1,000～1,500倍		前日
	ロブ°ラルくん煙剤	100g/300～400m ³		前日
	スミレックス水和剤	2,000倍	3	前日
	スミレックスくん煙顆粒	6g/100m ³		前日
SDHI剤	カンタスト°ライフロアブル	1,000～1,500倍	3	前日
	アフェットフロアブル	2,000倍	3	前日
Q°°I剤	アミスター20フロアブル	1,500倍	3	前日
フェニルビ°ロール系	セイビ°アフロアブル20	1,000～1,500倍	3	前日
フェニルビ°ロール系・ ヒト°ロキシアニリト°系	ジ°ヤストミート顆粒水和剤	2,000～3,000倍	3	前日
グ°アニジン系	ベルクートフロアブル	2,000倍	2	前日
グ°アニジン系・ ヒト°ロキシアニリト°系	タ°イマジン	2,000倍	2	前日

[お知らせ]

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。

農薬の詳しい登録内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(http://www.famic.go.jp/)

なお、農薬の使用や防除指導等に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

<鳥取県病虫害防除所ホームページ>

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病虫害発生予察情報、フェロモントラップ調査結果（ナシのシンクイムシ類）などの参考情報、病虫害の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

<お問い合わせ>

普通作物関係：〒680-1142 鳥取市橋本 260

鳥取県病虫害防除所

(TEL：0857-53-1345、E-mail :boujyot@titan.ocn.ne.jp)

もしくは

鳥取県農業試験場環境研究室

(TEL：0857-53-0721、FAX：0857-53-0723)

果樹・野菜・花き関係

〒689-2221 東伯郡北栄町由良宿 2048

鳥取県園芸試験場環境研究室

(TEL：0858-37-4211、FAX：0858-37-4822)

※予報第11号の発表は、2月4日（水）の予定です。